

科技高 いきもの記

Vol.25 2021.4.19

佐藤龍平

いったい何種類いるのだろう？ 校庭のアリたち

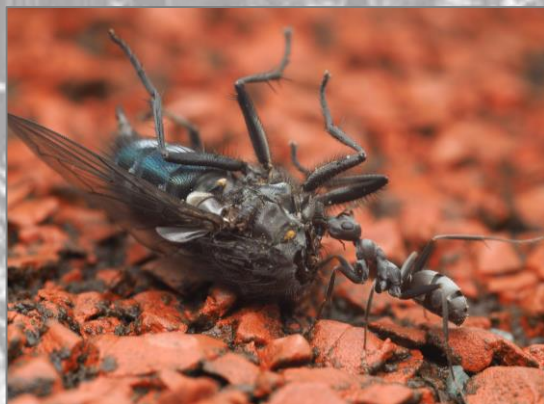
身近な虫の代表格とも言えるアリ（英語ではant）。科技高の校庭にはいったい何種類のアリがいると思う？

今まであまり意識して観察してみたことがなかったアリだが、コロナ禍で“身近な生き物”にこだわって観察を始めてから、校庭でアリを見つけては写真を撮りためてきた。この1年弱の観察で、**科技高の校庭で11種類のアリを見つけることができて**いる。小さな種類は2~3mmなので肉眼で見ても違いが分からず、撮った写真を拡大してようやく、「あぁなんか違う種類っぽいぞ」と分かる。見たことのないアリが増えていくことが密かな楽しみになっていた。11種類目（アメイロアリ）は今月に見つけたばかりだ。次々に新しい種類が見つかるので、自分が知らないだけで、アリの世界も奥が深いんだなぁと驚いている。きっとまだまだ見つかるだろう。

ただ単に「アリ」と言っても見た目も生態も本当に様々で面白い。地面だけでなく木の上に巣を作ったり、女王アリ無しで巣を維持する種類がいたり、タネだけを食べる種類がいたり、多彩だ。

文献を調べてみると、日本では**295種**（2019年現在）のアリが見つかっており、東京都でも**81種**（離島除く）が記録されている。さらに、市区単位での調査も行われており、例えば港区では44種、板橋区は24種という調査記録がある。また、新宿

御苑（20種）や東京大学駒場構内（24種）などの小さい範囲での調査も行われてきたようだ。しかし、**江東区の記録はなく**、また、これまでに**科技高内や猿江公園でのアリ調査を行った生徒はいない**ようだ。いったい何種類ぐらい生息しているのだろうか。本腰を入れて調査をして標本もきちんと残せば立派な研究になりそうだ。身近なところに、まだまだ分かっていないことがたくさんある。誰かアリの調査に興味がある生徒いないかな。



自分より大きなハエを運ぶクロヤマアリ
(ヤマアリ亜科クロヤマアリ属)



アブラムシに群がっているキロシリアゲアリ
(フタフシアリ亜科シリアゲアリ属)



巣から土を運ぶクロオオアリ
(ヤマアリ亜科オオアリ属)



ウメツオオアリの小型働きアリと大型働きアリ
(ヤマアリ亜科オオアリ属)



触角でコミュニケーションをとっているトビロケアリ
(ヤマアリ亜科ケアリ属)



お腹のしま模様が特徴的なアメイロアリ
(ヤマアリ亜科アメイロアリ属)



木の上で暮らすハリブトシリアゲアリ
(フタフシアリ亜科シリアゲアリ属)



ミミズを食べているトビロシワアリ
(フタフシアリ亜科シワアリ属)



ダンゴムシを食べているアミメアリ
(フタフシアリ亜科アミメアリ属)



幼虫？を大あごに挟んで運んでいるオオハリアリ
(ハリアリ亜科オオハリアリ属)



蛹を運んで引越しをするルリアリ
(カタアリ亜科ルリアリ属)